入選

心の雨

葛尾村立葛尾中学校　三年　松本（まつもと）　心美（ここみ）

「心美！虹が出てるぞ。」

父が私に向かって叫んだ。家の中にいた私は庭先に駆けだした。

「２本も虹が架かっているね。今日はラッキーだ。」

父と雨上がりの空を眺めながら会話を交わした。二本のカラフルな虹を見つめていると、さっきまでの雨も許せてしまうほどだった。このところずっと雨が降っていて、どこにも出かけられないし、退屈だったのだ。今日は良いことがある気がして心が晴れた。

しかし、その小さな幸せを感じる中で、熊本、鹿児島、福岡、佐賀、長崎、岐阜、長野に集中した大雨が続き「令和二年七月豪雨」をもたらしていた。私の住む福島県の葛尾村ではそこまで雨も降らず、そのニュースが異国の地のことのように思えていた。私はいつも通りに生活しているけれど、他の地域の方々は困っていると思うと胸が苦しくなった。テレビのニュースに映し出される家やお店は水浸しになっていて、まるで映画の世界が飛び出してきたようだった。部屋の窓から時おりのぞく太陽が嘘のようで、悲惨な映像を見るたびに悲しくなり、自分には何ができるのかと考えていた。

昨今の地球温暖化の影響で大雨が降りやすくなっているというニュースを耳にした。雨は植物を育て、地を潤す。とても重要だし、私たちにとって、なくてはならない大切なものだ。しかし、環境の変化によっていつ、どこで自然災害が起こってもおかしくない状況にある。貴重で、嬉しいはずの「雨」が時には残酷な爪あとを残している。

そんなときに社会の授業で災害について学習した。また、相双建設事務所の方が「集中豪雨から命を守るために」という講話をしに来てくださった。その中で、集中豪雨の発生に伴って自然災害が発生することを知った。道路の浸水や河川の氾濫、土砂災害。災害が一番多く発生するのは、七割の確率で山であると聞いて驚いた。私の住む葛尾村は山に囲まれていて自然豊かなのどかな村だ。山より川の方が危険だと思っていた私は、話を聞いて怖くなった。テレビで見た光景が私たちの住む葛尾村でも起こるかもしれない。他人事のように感じていた出来事が一気に現実味が増した。そして、土石流のスピードは時速二十キロメートルから四十キロメートルにも及ぶというのだ。大雨が降ったら、家の周りにでもいつ起きるかわからない。日ごろから気象情報に注意し、危険な箇所を確認しておくことと、避難場所を把握しておくことが大切だと改めて感じた。災害が起こったら、手遅れになる前にすぐに家族と安全な場所に避難し、待機しようと心に決めた。

大規模豪雨で命を落とした方々、家屋が流されてしまった方々、元の生活に戻るには大変な時間がかかるかもしれない。今この瞬間も不便な生活を余儀なくされている方がいるのだ。葛尾村にも雨が降ると、豪雨被害のことを思い出すようになった。今なお続く、仮設住宅での避難生活のニュースを見ても何もできない自分が無力に思えた。

でも、いつかみなさんの心にもきれいな虹が架かると信じている。雨が降ったら、いつか晴れる日が必ずやって来る。止まない雨はない。東日本大震災の支援を受けて育った私たちが今度は助ける番だ。自然災害を防ぐために、温室効果ガスを出さないよう生活に気を付けていこう。ガスは廃棄物の焼却によって排出されるためこれからは物を大切に扱っていく。電化製品や、車の使用も必要なのかを考えて計画的に使っていきたい。日本全国の方々が笑顔でいられるように自分にできることを少しずつして行こう。

被災地のみなさんの心の雨がやみ、虹が架かりますように。笑顔が溢れることを願って。